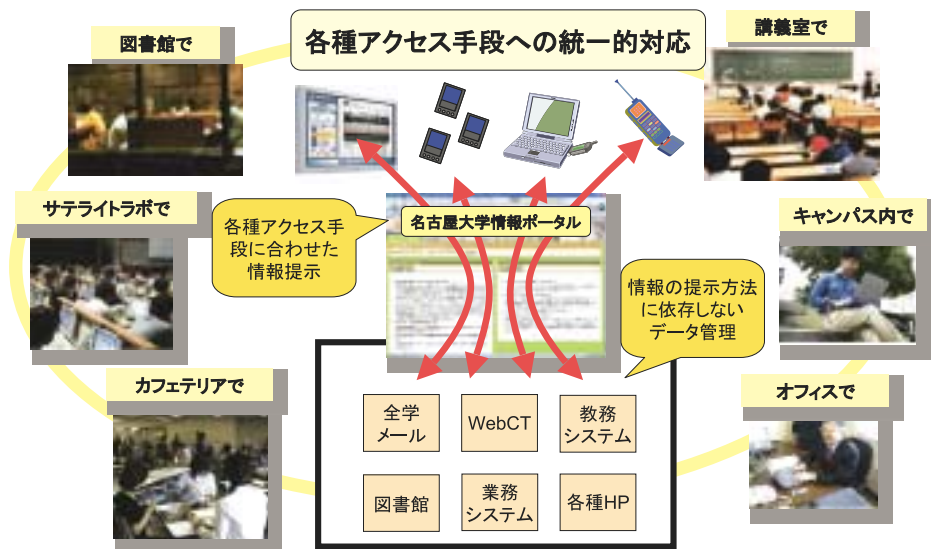


## 表紙の図について

### 「名古屋大学ポータル」

名古屋大学ポータルは、学内に散在する情報システム・情報資源を集約し、情報チャンネルという細かい単位でユーザに提供することで、ユーザごとに適切な情報を提供することを目指しています。また、名古屋大学ポータルは単なる情報へのアクセスのポイントとなるだけでなく、学部、学科、研究室、教室、研究グループ、部活・サークル、講義など各人が所属するさまざまな学内コミュニティにおける他のメンバとのコラボレーションを促進する場としても機能すると考えています。

2005年からは、これまでの実験成果をもとに次世代の名古屋大学ポータルを稼働させ、正式運用を開始しました。特に、すでに正式運用を行っている全学IDディレクトリサービスを用いて個人化された情報サービスをポータル経由で提供するとともに、成績投入や履修登録など高負荷が想定される情報サービスも提供できるよう、負荷分散装置、複数台のクラスタ型Webサーバ・データベースサーバを導入し、スケーラビリティのあるアーキテクチャを持つシステムとなっています。そして、成績投入・履修登録などの教務サービスだけでなく、WebCT（Web Course Tools）によるコース管理サービス、電子図書サービスなど、学内で提供される各種情報サービスをポータル経由で提供することにより、セキュリティ対策を名古屋大学ポータルで一元的に行います。さらには、学内の広報用Webサーバや各種情報サービスとの資源の共用化を進め、設備・運用・保守費用面での冗長な情報投資の抑制を図ることもできます。このような流れの中で、各種情報サービスが名古屋大学ポータルに一元化されることにより、閲覧デバイスの多様化にも対応でき、その結果として学内各種情報システムへのアクセス性の改善が進むと考えています。



(名古屋大学情報連携基盤センター：梶田将司 佐々木順子)